月のウサギ

御堂志生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
月のウサギ

【Ｎコード】
Ｎ３８２１Ｎ

【作者名】
御堂志生

【あらすじ】
『月は何でも知っている』シリーズ第４弾。あの見合いから２週間後、ドタキャンの姉さんが帰って来た。美希は渋々姉を神崎先生の元へ連れて行くが……。

（前書き）

☆長らくお待たせしました。
ルン先生にリクエストありがとうございます。
大居志穂さまからいただいたお題…「動物」です。

「え？　今、何て言った？」
突然帰って来た姉さんが、私の後ろでとんでもないことを言い始めた。
「だから、例のお見合い話。あんたイヤだったんでしょ？　あたしがお詫びに伺って、もう一度やり直して貰えないか頼んで来るから。……ねっ」
そう言って、２９歳と１０ヶ月の姉・遠野亜衣（とおのあい）はとってもヤバイ笑顔を見せたのだった。

◇

今から2週間前のこと、私・遠野美希（とおのみき）はお見合いをした。姉さんが土壇場でスッポかしてくれたおかげだ。なんと、この春に大学を卒業した２２歳の若さで、３４歳のおっさんとの見合いである。
抵抗したが、何と言っても５０代でリストラされた父が、１年掛けて見つけた再就職先の上司の頼みだと泣くように言う。
姉さんと違って“親孝行”の私にはとても断われず……。

とはいえ、私も東京で就職が内定していたのに、卒業間近で取り消されたクチだ。まあ、傾いてる会社に入っても仕方ないので、それはヨシとして……。
母の出身地であるK市に戻って来たのは卒業後。父が同じ系列の会社に再就職した関係から、地元大手の大型スーパーに即行で採用して貰った。という裏事情もある。
４月からこっち、研修ということでアチコチの売り場をたらい回

しだ。
入社から半年経って、やっと文具品売り場に落ち着いた。ちなみにこの売り場は、クリスマスプレゼントと進学・入学の時期が一番忙しいらしく、それに備えて今からラッピングの猛練習中だ。不器用なので、かなりの苦戦を強いられていた。

1ヶ月前に見合いをドタキャンした姉さんは、5歳も年下の彼氏とラブラブ同棲を始めていた。
美容師の姉さんは、さすがにいつも綺麗なカッコをしている。ロングヘアのナチュラルパーマは、とても繊細で女らしく見えるし……。ウエストは細く、バストはボンッと大きい。
ボトムスは姉さんと着回しが利くのに、トップスは出来ない。理由は、私の胸が2サイズも小さいせいだけどね……どうせ。

でも、勉強は私のほうが出来た。姉さんは高卒の美容師で、私は大学を卒業したのだ。
それに、スポーツも私のほうが万能だった。50メートル8．5秒掛かる姉さんに比べ、私は小4でフィギュアスケートを始めて、中学3年で全日本ジュニア選手権に出場したくらい。
なのに……なのに、である！
姉さんは東京の有名美容室に勤め、芸能人の髪も切ったことがあるという。何年か付き合った彼氏と別れた途端、開業医との見合い話が来て……。でも、見合いの2週間前に「精神科医ってダサくない？」と言い出したのだ。
その直後、5歳下の新カレが出来たことが判明。すると、親の迷惑を顧みずいきなりキャンセル！
7歳も下の私を代打で送りながら……今更、わけが判んない。

◇

「へぇー。ここが、クリニックなのね。この裏が、あたしの家になるんだぁ」
お見合いをキャンセルしたお詫びと称し、姉さんは私を引き連れて、ルン先生……いや、見合い相手・神崎望（かんざきのぞむ）の病院までやって来た。
ホントは一緒に来たくなかったけど……。でも、姉さん独りってすっごく不安。

「やあ、いらっしゃい」

彼は人の良さそうな笑顔で挨拶した。
ゼッタイ営業スマイルに決まってる。私は密かに心の中で決め付けた。このオトコだけは気を許せない。なんたって、ルン先生なんだから。

「わたくし急に不安になったんです。だって、医者の妻になるんですもの。学歴のないわたくしに務まるかどうか……。そんな女心、望さんなら判って下さいますよね？」
いきなり「わたくし」と上品ぶっても、無駄なんだけどね。しかも「望さん」なんて、初対面で呼ぶ？

溜息をつく私に、神崎先生はこっそりウインクしながら……「ええ、当然ですね。気になさらないで下さい」と、またもやニッコリ。うーん、どっちもどっちかも。

この神崎先生――別名ルン先生だ。
なんと隣の市で『占月術　神在月ルンの館』なんてものを経営している。古代の神官みたいな格好をして、黒い布で口元を覆い、話題の占い師とか地元紙で特集されるくらいの人気者なのだ。

私は見合いの1週間くらい前に訪れて、占って貰った。もちろん、当の本人だなんて思いもせずに。

『お逢いになってみてはいかがです？』

『その方は、あなたの欠けた部分を補ってくれる方だと思います』

なーんて言葉にフラフラッとして、お見合いも悪くないかも、って思っちゃったんだよねぇ。

ムーンストーンに触れる彼の指が、男の人っぽくてゴツゴツしてる割りにしなやかでセクシーだなぁなんて思ったり。占いを告げる声も、アニメの王子様役がピッタリくるような、クールミントの爽やかボイスだったり。ぬいぐるみのテディベアを思わせる人懐こい目に……騙されたとしか言えないっ！

「まあぁぁぁ！　なんて広いクリニックかしら。デイセンターまで？　こんな大きなお家（うち）だと、お掃除も大変ですわねぇ」

なんて姉さんははしゃいでいる。

どうやら、年下彼氏に結婚は最低5年は無理って言われたらしい。当然じゃない、と思うけど、姉さんは思わなかったようだ。不意にルン先生を思い出し、田舎に帰って美容室をやろう！　と思い立ったみたいだ。

父親が亡くなっていて相続した遺産があることを、どっかから聞いたみたい。

『田舎のボンボン息子なんて、チョロイもんよ！』

とか、携帯で東京の友達相手に話していた。

別にいいんだけどね。見合いの後、何回かデートに誘われたけど、全部断わってるし……。だって、このオトコといると、なんか苛々するって言うか……落ち着かないって言うか。

その時、病院の事務員さんが小走りにやって来た。５０代くらいのおばさんだ。
「先生！　今月の電気代落ちてないってよ。先月分も溜まってるんでしょ？　電気切るって言われたわよ」
「ああ……それはマズイな」
「わたしらの給料は大丈夫なんでしょうね？　ちゃんと払ってよ先生」
「うん、それは何とか」

そんな話を聞いて姉さんは私の腕を引っ張った。

「ねぇ、医者って儲かるんだよね？　こんな大きい家もあるのに」
「なんか、デイケアって儲かんないらしいよ。精神科って一番実入りが少ないみたい。父親の遺産をつぎ込んでるって見合いの時付き添いの人がコソッと話してたけどね」
「あ、あんた、それを早く言いなさ……ぎゃ！」

いきなり姉さんが後ろに飛んだ。何事かと思ったら……なんと足下に小さいウサギ。茶色い毛並みで、黒い瞳をウルウルさせ見上げている。

「ちょっと何よ、コレ！」
「キャー可愛い！　なんでこんなトコにウサちゃんが居るわけ？」

母さんと姉さんがペットの毛にアレルギーがあって、犬も猫も全然飼えなかった。金魚なら飼えたけど頬擦り出来ないし、亀を飼ったら気持ち悪いって姉さんに怒られた記憶がある。
私は小さいウサギを抱き上げ、思わず頬擦りしてしまった。
「なーんて可愛いの！　君は赤ちゃんかな？　ちっちゃいね～」

「ミニウサギだよ。もう大人なんだ……というかママだね」
ルン先生……じゃなくて、神崎先生が隣に来て説明してくれた。
何でも、お年寄りにとって動物と触れ合うのって心がリフレッシュされるらしい。年齢に関係なく、私も一気に癒されたけど。訓練された犬なんてそうそういないし、猫は爪を出すと怖いし、ミニウサギなら抱っこするのに適当っていうので飼いはじめたとか。
でも、ママって？　そう思ったとき、なんと庭の茂みから7～8匹のミニミニウサギが顔を出したのだ。
「オスだけ飼ってたんだけど、寂しそうなんでメスと一緒にしたんだ。そしたら繁殖しちゃって……」
「そりゃ、ツガイにしたら、普通そうなりますよ」
「結構歳は離れてるんだよ。動物には年齢差は関係ないのかな？」
「別に人間だって……」
言い掛けて私はハッとした。
占い……いや、ペテン師の神崎先生は私の顔をみてニコニコしている。なんか、罠に嵌った？
「あの……わたくし、そういう事で……本当に申し訳ありませんでした。わたくしにはやはり医者の妻は無理そうですわ。ああ、その子は大学も出てますし、ウサギの面倒を見るのにも問題ありませんから」
とかなんとか言いながら、姉さんは私を置いてさっさと帰って行く。
一方私は、ママウサギを抱えているせいか、子ウサギも皆寄って来て……帰るに帰れないじゃない！　何このウルウル攻撃。全員で

「なでてぇ」と甘えてくるってどういうことっ！？

「面白いお姉さんだね。判りやすいっていうか……ひょっとして、年下彼氏と上手く行ってないのかな？」

「なんか、そうみたいです。まあ、戻って来ないとは思うけど」

ちなみに、電気代も水道代も担当者が急に辞めて経理事務が滞っているらしい。給料計算する人がいなくて、事務員さんも心配している、とのこと。

デイケアは実入りは悪いけど、占いだけでも収入は結構あるんだよ……みたいに、具体的な数字まで教えてくれる。

「なんで私に話すんですか？」

「だって君には……婚約指輪とか、結婚費用とか、ハワイにハネムーンに行くくらいのお金はあるよって言って置かないと」

やっぱりどうも落ち着かない。なんか、早まった返事をしちゃいそうで怖い。

「……今日は時間あるんだね」

「まあ、休みですけど」

「ウサギ一家と遊んでいかない？　ついでに僕とお茶とかも」

とりあえず……ウサギに釣られたってことにしておこう。

～ｆｉｎ～

（後書き）

御堂です。
ご覧いただき、ありがとうございます。
春に募集したお題なんですが…ｏｒｚ
志穂さんが大好きなウサギで書いてみました！
気に入って頂けたら嬉しいです。
ありがとうございましたｍ（＿＿）ｍ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3821n/

月のウサギ

2010年10月9日07時20分発行